



適切な感染対策と汚物処理業務の効率化

社会医療法人幾内会 岡波総合病院

三重県伊賀市
335床／職員数 625 名（うち看護職員数285名）



課題・背景

①汚物処理室での作業について

- 尿器やポータブルトイレバケツなどの汚物処理業務が看護職員の時間や労力を要する
- 汚物処理洗浄時の周辺環境汚染や消毒が不十分であることは医療関連感染のリスクファクターとなる

②汚物処理室で行う作業のイメージ

- 臭くて汚いというマイナスイメージが強い

▶ 病院新築移転を機に、汚物処理業務のハード・ソフト両側面からの見直しを検討

目的・目標

- ①汚物処理の労力の削減と時間の短縮を図る
- ②汚物処理業務において医療関連感染が起こりにくい環境を作る
- ③汚物処理の作業は臭くて汚いというイメージを改革する

▶ マセレーターパルプ粉砕機（以下 マセレーター※）を導入する

※マセレーター：単回使用の紙製便尿器を排泄物ごと粉砕・処理する機器

取り組み内容

取り組みの流れ

問題点の洗い出しからマセレーター導入・評価まで

2022年1月 作業手順と問題の洗い出し

- ・洗浄および消毒の作業
- ・汚物処理の時間
- ・汚物処理室の作業は臭くて汚いが仕方ないとしている現状



消毒液に確実に浸漬できていない洗浄ボトル



汚物処理時に発生する汚物槽からの跳ね返り

2022年5月 マセレーター設置場所と作業動線の確認

- ・マセレーター16台導入（同一法人内の介護老人保健施設を含む）
- ・処理スペースの確保と動線を考慮した配置
- ・運用マニュアルの作成



▲汚物処理室内部の様子

- ・作業動線を考慮したパルプの配置
- スタッフヤードから未使用のパルプを持参し病室へ向かい病室から汚物処理室へ移動する



2022年12月 研修会の実施

- ・同一内容で複数回実施

2023年1月 新築移転に伴いマセレーター稼働開始

2023年5月 マセレーター導入における評価

- ・ラウンドによる使用状況の確認とフィードバック
- ・困りごとの共有と解決策の検討
- ・看護職員に対する聞き取り調査

成果・効果

① 汚物処理に要する時間短縮

- ・尿器使用患者3名、膀胱留置カテーテル挿入患者5名、ポータブルトイレ利用者3名が入院している病棟で汚物処理に必要な時間を比較

導入前	導入後
190分/日	26分/日

86%削減

② 排泄ケア用品の処理労力の削減

- ・マセレーター導入前後の作業工程と手順の比較

導入前	導入後
[手順1] 使用後容器を用手洗浄	[手順1] フットペダルで蓋を開き、使用後パルプをマセレーターに入れる。その後は自動処理
[手順2] 浸漬消毒	
[手順3] 乾燥して保管場所に収納	

③ 効果的な感染対策が可能になった

- ・微生物の飛散を受ける機会が減少した
- ・洗浄・消毒・乾燥の工程が不要になった
- ・動線が一方向になったことで、清潔と不潔が交差しなくなった
- ・周辺環境に接触することなく汚物処理ができるようになった

④ すべての看護職員が汚物処理の作業が軽減したと回答

○看護職を対象とした聞き取り調査結果（2023年5月実施 n = 27）

聞き取り調査の自由記載欄より一部抜粋

- ・汚物処理作業時間が短縮されベッドサイドケアに費やす時間が増えた
- ・汚物処理室のにおいが気にならなくなった
- ・尿器が消毒中ですぐに届かないなど、患者からの不満がなくなった

⑤ 汚物処理に関する業務の標準化につながった

- ・汚物処理に関するマニュアルの平均遵守率 **63.5%**
- ・汚物処理マニュアル遵守状況の確認と各部署へのフィードバック